

本校の教育課程

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

豊かな人間性と自ら考え、主体的に判断して行動できる力の育成を目指し、次のとおり教育目標を定める。

- 健康で自主性に富み、実行力のある生徒
- ◎ 自由と責任を重んじ、規律ある生活を送る生徒（重点目標）
- 仕事と勉強にうち込む生徒
- 自分や友達を大切にし、よい集団を育てる生徒
- 国際的な視野をもち、人との共生を図る生徒

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- 道徳教育の充実**：道徳の授業を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通じて人権尊重の精神や公共の精神、規範意識などの道徳性を育み、相手の身になって考え、思いやりのある言動ができる生徒を育成する。
- 生活指導・特別活動の充実**：朝礼や集会、学校行事等を通し、ルール遵守やマナーに関する指導を徹底し、規律ある集団づくりを推進する。服装については、時と場、状況にふさわしい服装や着こなしができるように指導する。また、生徒会活動や学校行事、学年・学級活動、部活動などにおいて、生徒の自治的な活動を活性化させ、活動を通して自主性と責任感を養い、より良い集団づくりと集団の質の向上を図る。
- 総合的な学習の時間・進路指導の充実**：「自立と共生」をテーマに、体験活動やゲストティーチャーによる講話、課題を設定した調べ学習などを通し、学び方やものの考え方を身に付けさせるとともに人間としての在り方や生き方を考えさせ、夢や目標をもち自己実現に努める生徒を育成する。また、ボランティア体験、国際理解、職場体験などの学習を通し、互いの違いや個性を尊重し合い、国際的な視点にたつて社会に貢献しようとする態度を醸成する。
- 学習指導の充実**：生徒による授業アンケートや各種学力調査結果を活用した、分かりやすい説明と学ぶ目標を明確にした授業の実現を図る。また、教材や指導方法、学習形態などを工夫・改善し、基礎・基本の確実な定着と思考力・判断力・表現力を高める授業を実現する。加えて、指導と評価の一体化を図り、補充指導の充実に努める。
- 言語を活用する力の向上**：学校図書館やICT機器を活用した各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事、朝読書などを通して、文章を読み解く力、自分の考えや調べたことをまとめ、分かりやすく表現する力など、言語を活用する力を伸長させる効果的な取組みを推進する。
- 体力向上・健康づくりの推進**：新体力テストを基に、保健体育の授業改善を図るとともに、ゲストティーチャーを招聘し、保護者と連携した効果的な体力づくり、健康づくりを推進する。
- 安全指導・防災教育の推進**：安全な学校生活の実現に向け、環境整備・安全管理を徹底するとともに、交通事故や不審者対応についても安全指導や家庭への便りを通して、怪我や事故防止に努める。また、地域や保護者、消防署や区防災課などと連携し、様々な状況を想定した避難訓練・防災訓練を実施し、生徒の危機回避能力を高める。
- 小中一貫教育の推進**：関町小、石神井西小、立野小とともに、小中一貫教育推進委員会を中心に学習指導や生活指導、道徳、キャリア教育、体力向上などの8つの部会を設け、計画的・組織的な研究推進計画を作成し、小中9年間を見通した望ましい子供の教育の在り方について4校で実践的な研究を推進する。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 基礎的・基本的な内容を確実に定着させるために、放課後や夏季休業中の補充指導を工夫・充実させるとともに、指導・評価計画の見直しを常に心がけ、指導と評価の一体化を図る。
- 年度当初に全教科の学び方と評価の視点をまとめたシラバスを作成し、自ら学ぶ態度の育成と生徒の家庭学習の質の向上に努める。また、国・都・区等の学力調査結果を活用し、達成状況が低い教科の指導の一層の改善を図る。
- 英語では習熟度別少人数授業を行い、基礎的・基本的な内容および発展的な内容の充実を図り、個に応じた指導の徹底を図る。また、ALTを効果的に活用し、特別活動や総合的な学習の時間などとの関連を図りながら、英語でのコミュニケーション能力を高める。
- 理科・数学では、実物拡大機や電子黒板などのICT機器を活用した授業を工夫するとともに、1・2年生の校外学習では、国立科学博物館や科学未来館などで学ぶ時間を設け、科学技術の進歩や日常生活と科学の結び付きに対する興味・関心を高め、科学する心を育て理数教育の充実に努める。
- 全ての教科、道徳、総合的な学習の時間において、グループ学習、話し合い、論述、発表などの言語活動を充実するとともに、生徒の主体的な学びを促進し、思考力・判断力・表現力の育成に努める。

イ 道徳

- 各教科や総合的な学習の時間、特別活動等における学習と関連を図った道徳授業を展開する中で、互いの人格を尊重し、「時を守り 場を清め 礼を正す」を基調とし、校内・校外でその精神を実践できる生徒の育成を図る。
- 道徳教育推進教師を中心に、副読本や多様な資料・教材を活用して、道徳的心情・判断力・実践意欲と態度を養い、道徳的価値の自覚を深める道徳授業の充実に努める。
- 道徳授業地区公開講座は、土曜日に全学級が同じ内容項目で授業を行うとともに、講演会や学級懇談会などと組み合わせ、生徒と保護者、教師が道徳的価値について、共に考え、話し合う機会とする。

ウ 総合的な学習の時間

- 「自立と共生」をテーマとし、キャリア教育の視点にたった体験的、課題解決的学習を行う。3年間を見通し各教科・道徳・特別活動等とのクロスカリキュラムを構築し、実践と評価を繰り返しながら、生きて働く力を醸成していく。
- 地域の高齢者福祉施設や保育所などでのボランティア体験活動、JICAやユニセフ協会のゲストティーチャーによる講話、英会話など、国際貢献に関わる学習を通し、主体的に社会に参画し、活動しようとする生徒を育成する。
- オリンピック・パラリンピックに関わる学習を通し、我が国を愛する気持ちや誇りに思う気持ちを醸成するとともに、他国の文化や人を尊重する態度を養う。
- 問題解決学習、体験学習、グループワークやディスカッションなどの多様な学習形態・方法で主体的な学びを工夫し、ものの考え方や学び方、表現の方法などを身に付けさせ、生涯にわたり自ら学び続ける基礎的な力を養う。

エ 特別活動

- 学年・学級経営計画に基づき、達成目標をもって望ましい集団づくりをするとともに、教師と生徒、生徒相互の望ましい人間関係を構築しながら、生徒が主体的に学年や学級の課題を解決する「自治の力」を培う。また、学校全体の課題については、生徒会を中心に、「生徒会討議」を行うなどして集団の質の向上に努める。
- 集団での生活を通し、一人一人の生徒が、自己を見つめ、自分をよりよく変えていこうとする自己指導能力や仲間と協力してより良い学校生活を築こうとする態度や実践力を高めるために、適切な支援や指導を行う。
- 生徒会活動や学校行事等の意義を再認識させるとともに、生徒一人一人が活躍できる場や機会を意図的に設け、自己有用感や成就感を味わわせるとともに、責任感や最後までやりぬく態度を育てる。
- 生徒会などが企画したボランティア活動を支援しながら、豊かな人間性や社会性を育むとともに、奉仕の精神や社会に貢献しようとする心や態度を養う。また、活動を通して、リーダーとなる生徒を育成する。
- 部活動の意義を重視し、全教員が顧問となり、部活動を通して、礼儀や規律ある態度、最後までやりぬく忍耐力、学年を超えた協調性などを育む。

(2) 特色ある学校づくりに向けて

- ハローワークや経済同友会等の講師を招聘したマナー教室や職業講話、地域での職場体験等を実施し望ましい職業観や勤労観、社会性を育み、夢や目標をもって意欲的に学校生活を送ろうとする態度を育む。
- ユニセフや青年海外協力隊、外国人留学生、海外での仕事経験者などのゲストティーチャーを招聘し、世界の動きや他国について知る機会を設け、国際社会に対する興味・関心を高めるとともに、グローバルな視点で考え、異なる文化や価値観、様々な個性をもった人を尊重する生徒を育てる。
- 司書教諭と学校図書支援員を中心に図書館の環境を整備し、読書週間や図書委員会を中心とした読書にかかわる活動や朝読書を活用したマイブック活動・ビブリオバトルなどの取組を行い、言語活動の充実を図る。
- 保健体育や運動会では、男女合同でダンスを創作し発表する取組を通し、男女共同参画社会の基盤となる意識や態度を醸成する。
- 栄養士等を活用した「栄養教室」、「給食試食会」、「学校給食協議会」の実施、給食だよりや学校のホームページへの献立掲載を通して、家庭と連携した食に関する指導を推進する。
- オリンピック・パラリンピックの歴史や意義、様々な課題や問題を多様な学習形態・方法で主体的に学ばせ、発表させるとともに、オリンピック・パラリンピアンによる講演会を行い、東京オリンピック・パラリンピックに対する関心を高め、かかわろうとする意欲を醸成する。
- 学校だよりやホームページを通して、教育活動の様子などを広く発信するとともに、学校評議員会や学校評価を活用したマネジメントシステムによるPDCAサイクルを推進し、学校運営の改善と発展に努めていく。

(3) 小中一貫教育の推進

- 部活動見学や中学校教師の出前授業、児童生徒交流・合同活動などを通していわゆる中1ギャップの解消に資する。
- 入学時からの学力の二極化に対応し、小学校教員とともに算数・国語の「春休みの課題」を作成し、小学校学習内容の復習並びに新入生の学習定着状況の把握を行い、入学後の個に応じた指導を充実させ、数学・国語の基礎学力の確実な定着に資する。また、有意義な春休みを過ごし、中学校生活への期待や学習意欲を向上させる。

(4) 生活指導

- 全教育活動を通し、基本的な生活習慣を身に付けさせ、責任ある行動がとれる生徒を育成する。また、特別活動や道徳、総合的な学習の時間と関連させて、規範意識や善悪の正しい判断力など、社会生活のルールやマナー、集団行動の基礎・基本を身に付けさせる。
- 全校朝礼や学年・生徒会朝礼などを通し、望ましい集団行動の在り方やあいさつ、礼法指導を行うとともに、講話や表彰等を通して、生徒の良さをさらに伸ばし、課題に気付き改善しようとする「自治」の態度を育む。
- 「地震対策の手引き」の内容を周知・活用し、様々な想定で避難訓練を行い、自ら身を守る力と日本赤十字社や消防署から救急救命や介助について学び、共助の力を養う。
- 本校「いじめ防止対策基本方針」に基き、いじめや学校不適応諸問題の未然防止、毎月1回のアンケートや個別相談のハートフルコミュニケーション活動などの取組を行い、一人一人の生徒理解を深めるとともに、教育相談部会やスクールカウンセラー、心のふれあい相談員、家庭教育支援センターなどの関係機関を活用し、解消に努める。
- 特別支援対策委員会では、コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや通級指導学級、関係機関と連携を図りながら特別な教育的配慮を要する生徒・保護者に対する校内での共通理解を図りながら適切な指導・支援を行う。
- セーフティ教室や薬物乱用防止教育、情報モラル教育などの現代的な課題に対する講演会や学習を通して、家庭と連携し、事故や犯罪、問題行動の未然防止・解決に努めるとともに、各種便り等で家庭に啓発する。

(5) 進路指導

- キャリア教育を機軸として、一人一人の生徒が自己理解を深め、適正な進路選択の能力を養い自己実現を図れるように、3年間を見通した教科・特別活動・総合的な学習の時間の全体クロス計画、指導計画を整備し実施する。
- 3年生を対象に、校長による面接指導や進路講話、上級学校訪問やゲストティーチャーによる講話などの機会を意図的に設け、自己の進路や生き方について考えさせ、夢や志をもち、実現に向けて努力する意欲や態度を培う。
- 全校保護者対象の進路説明会、卒業生や高等学校の先生を招聘した説明会などを通して、生徒・保護者が上級学校への進路選択・決定、学習方法などに対する理解を深める機会を設けるとともに、3年生に受験校別の振り返り記録や後輩への学習アドバイス資料を作成させ、資料を活用して2年生の上級学校への理解を深め、学習意欲を高める。